

# 持続可能な文化財の保存と活用のための方策について（第二次答申）【概要】

## 1. 検討の背景

- 文化財の修理技術者等や、用具・原材料の確保・支援等を持続的に進めるための5か年計画として「**文化財の匠プロジェクト**」を策定（令和3年12月24日文部科学大臣決定）
- 同プロジェクトの更なる対応策及び平成29年諮問の継続審議事項の検討が必要  
文部科学大臣からの審議要請（令和3年8月23日）における調査事項
  - （1）文化財の保存技術や技能の継承、修理技術者等の確保及び支援の在り方
  - （2）文化財の保存に必要な用具や原材料等の安定的な確保の方策
  - （3）持続可能な文化財保存の在り方など制度的対応（保存と活用の循環、資金調達の促進）

## 2. 課題及び検討の方向性

### （1）文化財の保存技術や技能の継承、修理技術者等の確保及び支援について

主な課題

- ・ **技術者が減少**し、後継者養成を限られた現役技術者が担うなど負担が大きい
- ・ 市場規模が小さく、家業として零細に営まれている場合が多いなど、**事務機能が脆弱**
- ・ 修理が生業として成り立つことが重要。高度な仕事への適正な対価という理解が必要
- ・ 文化財を護り支えてきた重要性に比して**認知度が低い**

検討の方向性

- 選定保存技術について、**複数認定を積極的に行う方針**を明確化し**認定を更に拡大**するとともに、広く認識され親しみのある通称を付し社会的認知の向上を図る
- 技術者が後継者養成や技術錬磨に注力できるよう、管理業務のサポート体制を整備
- 匠の技を伝える真正な用具・原材料の確保を支援するなど**伝承者養成支援を更に強化**
- **中堅・若手の修理技術者等のモチベーション**となるような表彰制度を創設
- 文化財保存技術の分野横断的な拠点、情報収集、調査研究、研修等の機能を有するナショナルセンターとしての**文化財修理センター（仮称）の設置に向けた検討**

### （2）文化財の保存に必要な用具や原材料等の安定的な確保について

主な課題

- ・ 文化財修理等の多くは、多種・高品質で少量かつ特殊な用具・原材料が必要
- ・ 原材料の需要開拓など、継続的な生産を支える環境が不足

検討の方向性

- 文化財の保存に不可欠な**原材料を国が順次リスト化・公表**し、各原材料の現状や課題に係る調査研究を加速し、**生産支援の充実**などにより、**安定供給**を図る
- 文化財修理に必要な用具・原材料に関する**需給調査**、代替材料も含めた原材料の調査研究、調査で得られた知見の集約・情報発信を定期的・継続的に実施
- 文化財建造物の修理機会における需要創出（**伝統的な和紙や畳の活用等**）

### （3）持続可能な文化財保存のための対応について

主な課題

- ・ 文化財の修理は、適正な周期で行われることが必要
- ・ 寄附金を含めて資金工面が困難な所有者が多く、公的機関のサポートが必要

検討の方向性

- 多様な文化財について、**長期的な修理需要予測調査**を実施。中長期的な見通しのある修理技術者等の仕事量確保にも貢献
- 国・地方公共団体で文化財保存に**必要な予算を確保した上で、文化財の保存・活用を目的とした多様な資金調達を活用**

- 「文化財の匠プロジェクト」と連動し、関係省庁等と連携し必要な措置を講じる。